

常総学院同窓会会報

発行／常総学院高等学校同窓会 編集人／同窓会会報編集委員会 委員長／飯田晃久 印刷／(株)塚田印刷



卒業生諸君に寄せる



学校法人常総学院
理事長

櫻井 富夫

我が国は、今、厳しい閉塞状況の中で、新たな突破口を見出そうと暗中模索を重ねております。「格差社会」「ホープレス社会」「無縁社会」といった言葉が、ひたひたと広がりつつあります。

大学四年生の内定状況一つみても、過日の厚生労働省・文部科学省の発表によれば、比較できる一九九七年以降の内定率が、データ上では今年四月一日現在、過去二番目の低水準、九一・八パーセント。前年比マイナス三・九ポイント。二〇〇〇年の九一・一パーセントと同様の低水準でありました。現実には、デー

タには現れない深刻な状況が起きております。

まさに先行きの見えにくい、不透明な時代状況にあるといえます。幕末から明治への一大変動期。更に太平洋戦争前夜から敗戦直後の一大混乱期。約一五〇年間におよび日本の近現代史を顧みる時、我が国の先人達は、これらの混乱の時代を生き抜き、大きな犠牲を払いつつ、日本の成長と発展とをもたらしたのであります。

こうした日本の近現代史生成の過程にあつて、私は、私学教育への熱く高い志を一にする仲間とともに、昭和五十八年四月、故郷茨城

の地に常総学院高等学校（平成八年四月に常総学院中学校を併設）を創設し、以来二八年間、本校独自の教育理念の下、常総学院を基礎教育の場として地域社会に提供し、地域は勿論のこと、日本に、世界に貢献する人材の育成に努めてまいりました。卒業生数も今年三月現在、一万八千四百名に達し、卒業生、在校生の兄弟姉妹が多数入学するとともに、卒業生の二世が入学してくれる時代を迎えております。

更に首都圏のみならず、全国的にも「活力ある文武両道の進学校」として高い評価を頂いております。殊に生徒の学力向上、学力伸長においては格別に高い評価を頂いております。この評価は、卒業生諸君、在校生諸君の弛まぬ努力と、保護者の皆様方ならびに本校に関わって下さる皆様方の熱意溢れるご支援とご協力、本校職員の研究の賜物と感謝しております。今回改めて、本校の教育理念、ひいては常総学院の目指すところについて語り、「同窓会会報」の巻頭言といたします。

本校の教育理念の第一は、「人

のため、地域社会のため、日本のため、地球世界のために生きる人材を育成すること」であります。現代の日本社会は、所謂都市型人間が増加し、人間関係が全く希薄になってしまっております。自己中心的な社会風潮に加え、他に責任を転嫁して憚らない、自己責任、自立意識の欠如と、社会における人と人との絆、共生への意識の喪失を痛感します。

嘗ての日本は、勤勉さ、直向きさ、更に手の器用さを併せ持つ、「ものづくり国」であり、品格ある誇り高い「教育国」でありました。今日の現況をみる時、我が先人達が培ってきた日本人としての本来の在り方を再認識し、日本人としての固有のアイデンティティを再構築することが急務であります。

現代社会における時代閉塞の現状を直視し、殊に国力としての「教育力」、即ち家庭、学校、企業、社会における教育力を再興、再生することが、私共に課せられた使命であり、次代を担う若者達への責務であります。

第二には、「誠実に生き、真面

目に生きること」であります。至極当然のことでありながら、現代社会にあつては、当然のこととは言いがたい現状があります。生徒達が自らの可能性を信じ、誠実に、真面目に、そして直向きに、自らの人生における課題に果敢に挑戦していく。そこにこそ人としての大きな成長があると信じます。

本校の存在意義は、生徒達が、その人生の途上において、如何なる状況下にあつても、自ら為すべきことに真摯に取り組み姿勢を育むことにあります。今年三月、卒業生の無欠席率は、七〇パーセントに達しました。全国に誇れる見事な成果であります。これは、本校生徒が、如何に主体的に自らを律し、誠実に真面目に学業に励んできたかを示す証であります。

第三には、「基礎学力を徹底して養成すること」であります。人生は紆余曲折、様々な課題に直面します。その折、勇を振るってシフトを変えようとする時、中学校時代培った基礎学力が、大きなエネルギーを発揮してくれま

す。換言すれば、本校で、全ての生徒が無我夢中で勉学に励み、大



学（大学院）に進学し、知識を知恵に変え、生きるエネルギーに変えていく。更に仕事を通して世界の人々と共生し、誇り高く今を生きる。新たな地球世界の創造に寄与する。こうした貢献の意識をもって生きる人材を育成していくのであります。

第四には、「生きることと生活することの違いを明確に認識すること」であります。人は、仕事を通して社会に貢献していく存在で

第一期生同窓会

同窓会会長
第一期生 代表幹事 飯田 晃久

あります。仕事によって生活の糧を得るのみでは、生活するというレベルに止まり、真の意味で人が生きるというレベルには達し得ません。自らライフワークと信じる仕事を通して、社会に貢献してこそ始めて、人が人として生き生きと輝いて生きる存在になり得るのであります。「何のために学ぶのか」「どのように生きていくのか」という生涯を通しての課題を、常に生徒に問い、模索し続けております。

常総学院は、この混沌とした時代状況下で、日本の未来を担う生徒諸君の、生存を懸けての教育実践に邁進しております。私学であればこそその厳しい現状認識と危機意識を共有するとともに、二一世紀を自立し生きるキーワードは「希望」であると信じ、日々の教育活動を展開しております。卒業生諸君のますますの成長とご活躍を心よりお祈りするとともに、母校常総学院への更なるご支援ご協力をお願い申し上げる次第であります。

今年五月三十日(日)、開校当時からいらつしやる原田校長先生をはじめ、在学中にお世話になった四名の先生方にもご出席いただき、土浦のHOTEL CANKOHにおいて第一期生同窓会が催されました。

一期生の中には久々に会う友人との話に盛り上がっている人もいたので、急ぎよ記念撮影を先に行い、その後、改めてトランプ奏者の神代修さんによる掛け声で乾杯を行いました。…とはいっても、初めから思い出話に花を咲かせていたのはほんの一部で、ほとんどは卒業からかなりの歳月が経過しているためにお互いにわからない会員がいたため、出席者全員の自己紹介と近況報告を行い、あの頃のことをより鮮明に思い出して話が大きいに盛り上がっております。当時行われていた体育祭のこと、一期生のクラス表記は数字ではなくA組・B組…のようにアルファベット

だったこと…。この会のために手伝いに来てくれた後輩の役員にも一期生のパワーを感じてもらっていました。最後は、現在教頭になられた体育の長谷部先生にご挨拶いただき、当時の集団行動を全員で行って、盛会のうちに終了いたしました。

当時はあまり話さなかった人も正直いたでしょうが、同窓会がきっかけとなって昔からの親友のように話せるのもいいものです。それは多感な年頃の高校時代を、同じ学び舎で過ごしたからこそその共通の感情があるからかも知れません。これを機に、来年は二・三期生合同の同窓会を企画し、また、同窓会を卒業年度順に毎年行い、先輩・後輩の間でも盛んな交流が行われることを期待いたします。



卒業生からの便り

学校法人権名夢学園 こぼと幼稚園 園長
第三期生 権名 健一



私は、第三回卒業生として昭和六十三年三月に卒業し、その後、父の経営する牛久市のこぼと幼稚園に勤務しました。現在は父の後を継ぎ園長として幼稚園経営に携わりながら、園児たちの成長を楽しみながら充実した日々を送っております。

幼児教育にたずさわる立場になつて、改めて感じることは「教育の大切さ」と「子供の可能性」です。私どもの幼稚園では「すべての子供は天才」を合い言葉に、女子プロゴルファー横峯

さくらさんの叔父である横峯吉文先生が開発されたヨコミネ式という教育システムを導入しております。幼稚園児が読み書き、

計算、音楽、体操を毎日の活動の中で取り組む中で子供の可能性を一〇〇%引き出していくという教育です。園児たちが意欲的に取り組む中で、卒園までに園児自身が日記を書いたり、逆立ち歩きをしたりと子供の成長ぶりが目に見えるということと地域の保護者からも高い評価をいただいております。

高校生活を振り返りますと、この三年間はとても懐かしく今でも鮮明に思い出として残っております。入学した時の最初の印象は「とっても大きな学校だな」とビックリしたことを覚えております。私の出身中学は一学年四クラス、小学校は二クラスだったので生徒数の多さにそう感じたのでしょうか。しかし、この生徒の多いことが、逆にたくさんの友人との出会いにつな

がり、常総学院を通して、生涯付き合える友人に出会えたことに、今さらながら感謝しております。

常総学院におかれましては常に新しい視点での教育活動を推進し、高い教育環境を維持されていらっしゃることに卒業生としても大変誇りに思います。仕事柄いろいろな方とお会いし話しをする機会がありますが、どの方と話しても常総学院の評価は高く、そのような話題があるたびに卒業生として嬉しくもあり、誇りに思います。このような高い評価は、校長先生をはじめとした教職員の先生方が、質の高い学校作りのためたゆまぬ努力があつてのことだと思います。

また、私の身近な所で常総つながりが多いことにビックリさせられます。例えば、当園の教諭に常総学院の卒業生がおり、お子様が在校生の職員もおります。そして、在園していた保護

者に常総学院の先生がいらつしやつたこともありました。何より嬉しいのは、当園の卒園生が常総学院に入学したと聞いた時でしょうか。卒園生の保護者として街中で偶然お会いし、進学の話になり常総学院に入学したと聞いた時には、思わず「実は私も常総出身なんですよ」と話してしまいます。そうした方々と「常総つながり」として常総学院の話題で話しが咲くことが私にとって嬉しいことです。

これからも、私たち卒業生が誇りを持てる常総学院であり続けて欲しいと思います。きっと卒業生は誰も母校のことは気になるもので、きっと学校からは離れても応援し続けていると思います。私もその一人として微力ではありますが応援しながら、使命である幼児教育を通して日本の将来を担う子供たちを育ててまいります。

常総学院と自分

第六期生

塚本 勝則

卒業生の皆様におかれましてはご活躍のこととお慶び申し上げます。私は塚本工業株式会社ギフトセンターツカモトブルーマウンテンつくばという会社を阿見町で現在経営しております。

恐縮ですが会社の案内をさせて頂きますと冠婚葬祭ギフト、トロフィー楯などの記事、各種記念品、オフィスコーヒー事業、イベント企画運営、印刷全般などなどをしております。

現在三八歳です。振り返ると怖くなるほど時間の過ぎるのがはやくすでに高校を卒業して二十年という年月がたつてしまったことに驚きを感じています。

私は仕事柄いろいろな業種の方とお話をさせて頂きますが地元での商いの為、よく卒業高校を聞かれます。常総学院の名前を出すと、必ずと言って良いほど話が膨らみます。それは一期

生から現在在校生が多方面ご活躍をされている恩恵だと思っております。

今回、常総学院の生徒手帳を弊社にてご依頼を頂きしじみと内容を読ませて頂きましたが、在学中の守らなくてはいけない義務を守ることににより生徒が学校にどれだけ守られていたかにきづかされました。当時はなかなかきづきませんが、学校は生徒が健全に学習を出来る環境築き、学校外においても健全な生活が出来るように導いてくれていたかにきづき、改めて感謝いたします。

校訓 自主、誠実、創造を座右の銘として限らない可能性に向けて努力する。

自主・自分で自分のやるべきことを積極

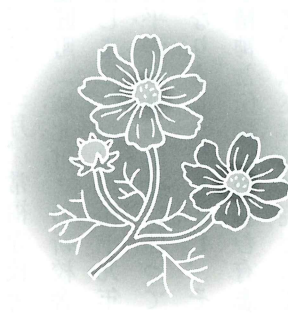
的に自分のものとする。誠実・真心をこめてまじめに責任をもって行動する。

創造・新しいものをつくりだす努力をする。(生徒手帳より抜粋) 世間では口を開けば不景気な話ばかりの昨今ですが、校訓に改めて勝ち抜く抜くヒントを頂

いた気がします。

最近では常総学院同窓会会長の飯田晃久先輩、一期生雨谷廣実先輩、十期生中山竜彦さんとともに土浦ライオンズクラブに所属し日々奉仕活動に取り組んでおります。

今後、益々の在校生、卒業生、関係者各位のご活躍をお祈りしております。



常福寺と常総学院

東光山医生院常福寺
第十八期生 妹川 泰仁

常総学院は、明治三十八年（一九〇五年）十月、土浦小学校長を務め、日本幼児教育の先駆者として知られる渡辺嘉重先生が、常福寺境内に「私立常総学院」を設立したことが始まりです。

常福寺は伝教大師の高弟最仙上人が開いたお寺です。御本尊の薬師如来は、最仙上人自ら刻まれた尊像で、大正八年八月十六日に国の重要文化財に指定されており、平安初期の特色があり千年を越えるものと鑑定されています。室町時代には本堂内陣に日光、月光、十二神将等の脇待仏を配して、山容は大きく整いました。徳川初期、宗観大徳晋住のとき、その徳風を慕って多くの信徒が群り集り、寺運は益々隆盛に至りました。当山の基礎もかたまり、七堂伽藍も完備して、常総一帯の名刹と

しての壮観を現しました。

さて、明治時代、国の教育政策の重点は初等教育に置かれており、中等教育の普及発展は十分ではありませんでした。土浦では、茨城土浦分校が廃校になったあと設立された茨城第二中学校も廃止されていたため、この地方の人々は困っていました。そこで、優秀な教育者らが中学教育相当の私塾を開いて、公立中学校設立までの便宜をはかっていました。なかでも、明治二十四年上大津村手野に開かれた育英義塾や、翌二十五年に上大津村手野の高野虎次郎先生が開校した常陽館などには、土浦をはじめ信田、東茨城、筑波、真壁、河内、行方など各郡から生徒が集まっていました。

しかし、これらも明治三十年にようやく茨城県尋常中学校土浦分校の設置が決まると、目的を果たしたとして廃止となりました。

こうした現状から渡辺嘉重先

生は、常総野を一望できる常福寺の広い境内の一隅に仮校舎を

建てて、普通、専修、講習の三科のほか、英、数、国、農、商を教える中等学院を設立したのでした。その学院の様子は、

「我が常総学院は、明治三十八年十月一日の創立にかかり新治郡中家村下高津の常福寺境内に在り、土地高く樹木うっ蒼として茂り、眺望甚だ佳なり。東に土浦を望み北に筑波の青峯を控へ、殊に梵鐘は土浦八景の一たり。生徒五十余名、先生二名ありて之を督す。校庭には庭球の設けありて、身体を鍛錬するに便なり。舍内に闘球盤あり、ピンポンありて雨天の時のなぐさみに供す。又隔月に常士会を開催して生徒の談話演説あり、且年二回雑誌を発行して、學術文芸を奨励す。之を以て見れば創立日尚浅きも、実に是れ理想的学校と云はざるべからず。」と記録されています。

そして八年後の大正二年

（一九一三）三月、常福寺校舎から鷹匠町（城北町）の新校舎に移転しましたが、昭和十九年四月太平洋戦争の激化に伴って廃校となりました。しかし、その建学精神と伝統を惜しむ有志によって、私立常総学院として昭和五十八年四月西根町の佳勝地に再建されたのでした。

このように歴史あるお寺に生まれ、そこから生まれた常総学院を卒業できたことを誇りに思います。

私の教育実習

成蹊大学 文学部 日本文学科四年
第二二期生 堤 絵里子



常総学院で教育実習を行うことが決まってから、担当するクラスの子とも達と良い関係が作れるか、授業はちゃんと出来るのかなどを考えていました。

実習初日のロングホームルームでは一体何をすればよいか、とても悩みました。しかし、これは最初に私が生徒と話せる時間だと思い、自己紹介をするのになりました。ただ、私の一方的なやり方では生徒も飽きてしまうので、クイズ式にしました。また、生徒達のことも知りたいと思いい、今日標にしていること、将来、どのような仕

事をしたいか、を書くプリントを作りました。最後に、私が行ったロングホームルームの感想や、私への質問などを書いてもらいました。始めは生徒達の反応が不安でしたが、私のクイズにも積極的に参加してくれ、配布したプリントにもたくさん記入してくれました。緊張していましたが、生徒達の真剣に話を聞く態度や積極的な質問に助けられ、自分らしくできたと思います。プリントには全てコメントを書きました。このことをとおして、生徒一人一人を知ることとに繋がったと思います。

私の実習期間中に、陸上記録会が行われました。自分達が生徒の時とは異なる視点で、教師として、生徒達の安全に何よりも気を配りました。当日は天気にも恵まれ、大きな怪我や体調不良も無く、無事に陸上記録会を終えることが出来ました。行事を行う際、生徒の健康・安全面に対して小さな異変も見逃さな

いという姿勢がいかに重要なかを学びました。

また、教師としての視点を意識しながらも、生徒と一緒になつて競技を観て、応援することには私と生徒との繋がりをより強くしたと思います。わたしが実習生として競技に参加した時に、応援に来てくれた生徒もおり、最後にクラス全員で写真を撮った時には、担当しているクラスの一人であることを強く実感することができました。

実習二週目から授業をするのとなり、私はすぐにできることを実施しました。それは授業を行う際の基本ですが、大きな声です。特に授業で大事な部分では抑揚をつけるなどして工夫をしました。意識していた甲斐もあり、研究授業時の声は、見に来て下さった先生方にも評価していただきました。他に、発言の多い授業にしかかったので、さまざまな質問をしました。しかし、質問内容が簡単すぎると

いう指摘を受けました。授業は、生徒が文章を読んだ時に疑問を持ち、考え、読み取っていかなくてはならない力を育てていかなければなりません。そのために、もっと生徒の考えを深めていけるような質問内容にする必要があるというアドバイスをいただきました。

今回の教育実習では改めて、人に教えることの難しさと責任の重さを感じました。その一方で、生徒達と関わり、時には励まされ、時には協力してもらい、言葉では表せないほどの教職の素晴らしさを教わりました。教育実習で得た生徒との思い出と学んだことは私の一生の宝物です。私はこの経験を活かし、自身の理想とする教育のために努力を惜しまず、精進していきま

母校での教育実習

第二十二期生

小原弘友紀

まず、教育実習でご指導していただいた校長先生、担当してくださった先生方、各教科の先生方に、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございますでした。

今回、私は、五月三十一日から六月十八日までの三週間、教育実習させていただきました。その教育実習を通して、あらためて教師という仕事の大変さ、そして責任感というものを強く感じました。

一週目に行われた陸上記録会では、体育科の先生方と一緒に行動させていただきましたが、生徒たちが競技場に集合する二時間前から競技の準備が始まっています。また、競技が開始してからも、ゴールでのタイム計測、出場選手の招集・誘導、そして、記録や集計など先生方の仕事が多くあり、昼食をとることもままならない状況の中

で大会を支えていらっしやいました。毎年行われている陸上記録会において生徒たちが楽しく、気持ちよく競技に取り組むことができてるのは先生方の陰での仕事があるからであり、そうした先生方の仕事は高校時代に生徒としては気がつくことができなかつたことでした。このよう

な、見えないところでの先生方の仕事を、実習生として手伝い、肌で感じる事ができたことは大きな財産となりました。

私がホームルームや授業を担当したクラスは、特技コースが主でした。担当した二年一組の生徒たちをはじめ、学校全体を通して感じたことですが、常総学院の生徒たちは挨拶がしっかりとでき、また、規律を守る事ができる、素直な子たちばかりでした。そのため、ホームルームや給食、授業の時間を通して、生徒たちとコミュニケーションをとることができ、話を数多くすることができました。私

自身も、高校時代は野球部に在籍し、特技コースの生徒として生活していましたが、部活動と勉強の両面に熱心に取り組むという同じ境遇の生徒たちに、自分の高校時代の体験談や経験を話す機会を得られたことは、なによりも嬉しい経験となりました。これからの生徒たちの活躍に期待したいです。

最後に、教育実習を通して、『学校の主役は生徒である』と、再認識することができました。生徒の成長のために、授業を考え、つくりあげていくこと、そして、生

徒の小さな間違いも指摘をしてあげる目配り、気配りの重要性を実習のなかで感じ取ることができました。こうした、教育実習という貴重な経験をこれから的人生に活かしていく所存です。



成人を祝う会

開催

常総学院高等学校 第二十三期卒業生
常総学院中学校 第七期卒業生代表

藤崎 浩孝

私たち常総学院中学校第七期卒業生は、二〇一〇年

三月二十日に「成人を祝う会」を開催しました。卒業生二一〇名と先生方二一名が二年振りの再会に大変盛り上がりました。「成人を祝う会」を振り返って一番印象に残っていることは一次会でのことです。開会式で学年主任であった栗山先生から御挨拶を頂きました。栗山先生がマイクをお持ちになっても会場は盛り上がりながらもなかなか静まりませんでした。そこで一言。「私、私語の中で話すの嫌いなんだけど。」一瞬にして静まりました。私はこの様子を見て、

みんな外見は二年前とすっかり変わってしまったけれど、中はやはり常総生だと思えました。また、このときの様子を、「常総に戻ってきたって感じた」とか「栗山先生の言葉にグツときた」と話す人もいました。

お願いをしなくても準備や片付けを手伝ってくれる人、「幹事お疲れ様」と声をかけてくれる人がたくさんいて、自分はこの常総学院で学ぶことができて、こんなに素晴らしい仲間に出会えて本当によかったと思うと同時に、これが第七期生のカラーなのだ実感しました。

最後に、「成人を祝う会」を開催するに当たりご協力して下さった先生方、会場を提供して下さいました常総学院中学校にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。



部活動実績

平成22年4月～平成22年6月

■硬式野球部

春季関東地区高校野球大会茨城県予選

県予選

出場

■サッカー部

第53回関東高等学校サッカー大会茨城県予選

会茨城県予選

準優勝

関東大会 出場

■ラグビー部

第11回全国高等学校ラグビーフットボール大会

フットボール大会

Fグループ2位

第58回全国関東高等学校ラグビーフットボール大会茨城県予選

準優勝

第58回全国関東高等学校ラグビーフットボール大会

1フットボール大会

Cブロック3位

県民総合体育大会兼第65回国民体育大会ラグビーフットボール大会茨城県大会

会茨城県大会

Aブロック優勝

■駅伝部

県南地区高等学校陸上競技大会
男子一五〇〇・五〇〇〇m・三〇〇〇m障害 出場

女子八〇〇・一五〇〇・三〇〇〇m 出場

茨城県大会 出場

硬式テニス部

関東大会県南地区予選

女子団体 準優勝

茨城県大会 出場

全国高校総体テニス県南地区予選

選

男子団体 2回戦敗退

女子団体 5位

■男子バドミントン部

関東大会茨城県予選

優勝

関東大会 出場

全国高等学校バドミントン選手権大会茨城県予選

シングルス4位・ベスト8・ベスト16・ベスト32

関東大会 出場 (25年連続)

全国高等学校バドミントン選手権大会茨城県予選

男子団体 準優勝 男子ダブルス 3位・4位・ベスト8

第56回関東高等学校バドミントン選手権大会

女子団体 優勝・準優勝・ベスト8

女子シングルス 準優勝・4位・ベスト8

女子ダブルス 優勝

第56回関東高等学校バドミントン選手権大会

男子団体 出場

■女子バドミントン部

関東大会茨城県予選

優勝

関東大会 出場

全国高等学校バドミントン選手権大会茨城県予選

シングルス 準優勝・4位・ベスト8・ベスト32・2回戦ダブルス 優勝・準優勝・ベスト8

全国高等学校バドミントン選手権大会茨城県予選

女子団体 優勝

女子シングルス 準優勝・4位・ベスト8

女子ダブルス 優勝

全国高等学校バドミントン選手権大会茨城県予選

女子団体 優勝

女子シングルス 準優勝・4位・ベスト8

女子ダブルス 優勝・準優勝・ベスト8

女子シングルス 優勝

女子ダブルス 優勝

女子シングルス 優勝

女子ダブルス 優勝

女子シングルス 優勝

女子ダブルス 優勝

女子シングルス 優勝

女子ダブルス 優勝

女子シングルス 優勝

女子ダブルス 優勝

女子団体 2位 女子個人 3位

第57回関東高等学校剣道大会茨城県予選会

女子団体 4位

男子団体 出場

男子・女子個人 出場

第57回関東高等学校剣道大会茨城県予選会

女子団体 3位

男子団体 出場

男子・女子個人 出場

関東大会 出場

■水泳部

日本選手権水泳競技大会兼パンパシフィック選手権代表選手選考会

二〇〇・四〇〇m自由形 出場

一〇〇mバタフライ 出場

第46回茨城県民総合体育大会水泳競技大会

男子団体 優勝 女子団体 優勝

男子二〇〇m平泳ぎ 3位

男子一〇〇m背泳ぎ 3位

男子二〇〇mバタフライ 1位・2位

男子二〇〇m個人メドレー 3位

女子五〇m自由形 2位

女子一〇〇m自由形 2位

女子二〇〇m自由形 1位

女子四〇〇m自由形 1位

女子二〇〇m自由形 2位

女子四〇〇m自由形 2位

〇〇m自由形 2位 女子八〇〇

m自由形 2位 女子一〇〇m平

泳ぎ 3位 女子二〇〇m平泳ぎ

3位 女子二〇〇m背泳ぎ 2位

女子一〇〇mバタフライ 1位

女子二〇〇m個人メドレー 1位

(大会新記録) 女子二〇〇m個人

メドレー 2位 女子四〇〇m個

人メドレー 1位・2位・3位

第61回全国高等学校水泳競技大会茨城県予選会

男子 総合優勝 男子二〇〇m

平泳ぎ 3位 男子一〇〇m背泳

ぎ 3位 男子二〇〇mバタフラ

イ 1位・2位 男子二〇〇m個

人メドレー 3位 男子 四〇〇

mメドレーリレー 1位(大会新

記録) 女子 総合優勝 女子五

〇m自由形 2位・3位 女子一

〇〇m自由形 1位 女子二〇〇

m自由形 1位 女子二〇〇m平

泳ぎ 2位 女子二〇〇m背泳ぎ

2位 女子一〇〇mバタフライ

1位 女子二〇〇m個人メドレー

1位・2位 女子四〇〇m個人メ

ドレー 1位・2位・3位 女

子四〇〇mメドレーリレー 1位

(大会新記録)

■弓道部

関東大会県南A地区予選

近的 8射5中 近的 8射

4中 近的 8射2中

茨城県大会 男子団体 出場

茨城県高体連弓道春季県大会

男子団体

出場

全国高等学校弓道選手権大会茨

城県予選

男子・女子団体 出場 射詰

2位・3位 射込 11位・12位・

14位

第59回あやめ祭弓道大会

団体 3位 射込 4位・5位

(あやめ祭特別賞)・8位

■パワーリフティング部

第27回茨城県高等学校パワーリ

フティング選手権大会兼第28回全

日本高等学校パワーリフティング

選手権大会県予選会

男子団体 優勝 個人戦 全階

級制覇 男子56・0kg級 優勝(兼

最優秀選手) 男子67・5kg 優

勝・準優勝 男子75・0kg級 優

勝・優勝

全日本大会 出場

■卓球部

関東高校卓球大会県南予選会

男子団体 ベスト8 男子シン

グルス ベスト16 男子ダブルス

ベスト10 女子シングルス

ベスト16 女子ダブルス 3位

全国高校卓球選手権大会県南地

区予選会

男子団体 ベスト8 女子団体

3位 男子ダブルスベスト10 女

子ダブルス 準優勝

茨城県大会 出場

県民総体兼全国高等学校総合体

育大会卓球県予選会

女子団体 出場 女子シングル

ス ベスト32 男子ダブルス

出場 女子ダブルス 準優勝

■柔道部

関東大会茨城県予選

78キロ超級 3位

全国大会茨城県個人予選

52キロ級 ベスト32・60キロ級

出場 78キロ超級 3位

■チアリーディング部

権大会2010関東大会

CHEER部門 出場 ミスダ

ンスドリルチーム部門 出場

全国大会 出場

■ソフトボール部

県高校総体兼県民総体兼全国高

等学校総合体育大会茨城県大会兼

全日本高等学校男子ソフトボール

選手権大会茨城県予選

ベスト8

■囲碁同好会

第34回全国高等学校囲碁選手権

大会茨城県大会

個人Dグループ 1位・2位

■JRC部

かすみがうら盲人マラソン ポ

ランティア参加

あしなが学生募金 募金活動参

加

進路指導室より

進路指導部長 菅谷博之

平成22年度 大学入試総括及び最近の 進路指導の取り組み

「医学部理系選抜クラス」 平成23年開設が決定

今春も卒業生六〇四名の皆さんの努力の成果が大きく実を結び、国公立大学の合格一四八名、私立大へ九三四名が合格し、四年制大学へ合計一〇八二名が合格することが出来ました。現役で四年制大学への進学率は九十・二%に上りました。茨城県全体の四年制大学進学率四十七・五%と比較しても、本校は約二倍の進学率です。二〇一〇年三月発行の『サンデー毎日』誌で、「有名私立に強い全国四五〇高校」の一つに本校が選ばれました。

本校の今春の大学入試の特徴として、ここ数年来の経済不況の影響で、国公立志望者は年々

増加傾向が見られます。特に、防衛大学の合格者は全国トップで三五名が最終合格を手にしております。もう一つの特徴として、資格志向が高まり医療看護系の希望者が増加しており、難関といわれる医歯薬学部に計三八名が合格しております。

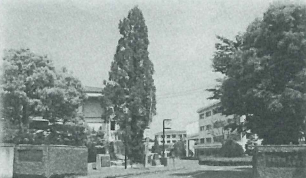
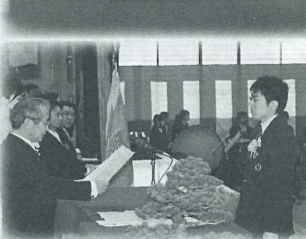
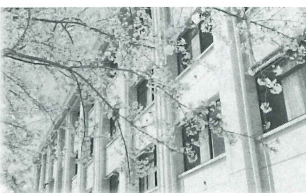
今後の展開として、本校では、全国的な医師不足解消の一助とすべく、現在の高校一年生を対象に、平成二十三年度より『医学部理系選抜クラス』の設置が県より承認されました。その準備の年である本年は、中高全年の医学部進学希望者を対象に、各分野の専門の医師をお招きし、毎月一回のべー

スで講演会を、更にゆとりの日には病院見学会等を実施しております。毎回の勉強会では一〇〇名を越す受講者で視聴覚室が満席の状態になっており、今後の成果が期待されております。

最後に、本年度も、合格体験

談集第七号『桜咲く常総 in 2010』が七月一日に発行されました。今春卒業された方で、ご希望の方は来校頂ければ残部がある限りお渡しいたします。進路指導室までお問い合わせ下さい。

(平成22年7月25日記)



桜咲く常総 in 2010

—合格体験談集—

常総学院高等学校
進路指導室

平成22年度入試 四年制大学入試合格者数

2010年5月1日現在

国公立大学		大学名		人数	大学名		人数	大学名		人数
大学名	人数	都留文科		1	慶應義塾		6	二松學舎		5
東京	1	長野県看護		1	工学院		11	日本		39
東京外国語	2	静岡県立		1	國學院		8	日本歯科		2
北海道	1	大阪市立		1	国士舘		15	日本獣医生命科学		2
東北	2	兵庫県立		1	駒澤		16	日本女子		8
筑波	12	下関市立		1	実践女子		3	日本体育		1
名古屋	2	防衛大学校		35	芝浦工業		19	文化女子		4
帯広畜産	1	気象大学校		1	順天堂		2	法政		19
北見工業	3				昭和		3	星薬科		2
北海道教育	1	私立大学			昭和女子		10	武蔵		2
岩手	1	酪農学園		3	女子栄養		2	東京都市		15
秋田	1	岩手医科		2	女子美術		1	武蔵野音楽		1
山形	5	奥羽		1	成蹊		5	武蔵野美術		4
茨城	22	獨協医科		3	成城		4	武蔵野		7
宇都宮	1	国際医療福祉		4	聖心女子		2	明治		29
群馬	4	日本保健医療		2	清泉女子		2	明治学院		11
埼玉	3	日本医療科学		1	専修		12	明治薬科		2
千葉	4	跡見学園女子		1	創価		1	明星		9
電気通信	5	埼玉医科		1	大東文化		11	立教		14
東京学芸	3	明海		5	大正		7	立正		20
東京芸術	1	城西		5	拓殖		10	早稲田		12
富山	1	駿河台		3	高千穂		1	駒沢女子		1
静岡	2	獨協		4	玉川		10	学習院女子		1
浜松医科	1	文教		3	多摩美術		3	麻布		1
島根	1	神田外語		2	中央		20	神奈川		7
佐賀	1	国際武道		3	津田塾		2	産業能率		2
鹿児島	1	千葉工業		31	帝京		30	洗足学園音楽		1
公立はこだて未来	2	帝京平成		52	東海		16	帝京科学		9
名寄市立	1	麗澤		10	東京家政		5	藤田保健衛生		1
釧路公立	5	和洋女子		4	東京経済		9	同志社		1
岩手県立	1	東京医療保健		3	東京歯科		2	立命館		5
宮城	1	亜細亜		8	東京女子		12	関西		1
秋田県立	1	青山学院		10	東京女子医科		5	近畿		1
会津	2	大妻女子		5	東京電機		41	久留米		1
茨城県立医療	6	桜美林		5	東京農業		18			
高崎経済	1	学習院		11	東京薬科		4	(総合格数)		
群馬県立女子	1	北里		5	東京理科		54	国公立大学		148
首都大学東京	1	共立女子		7	東邦		11	私立大学		934
横浜市立	2	杏林		1	東洋		15	計		1082

在校生の活躍

予科練平和記念館を 見学して

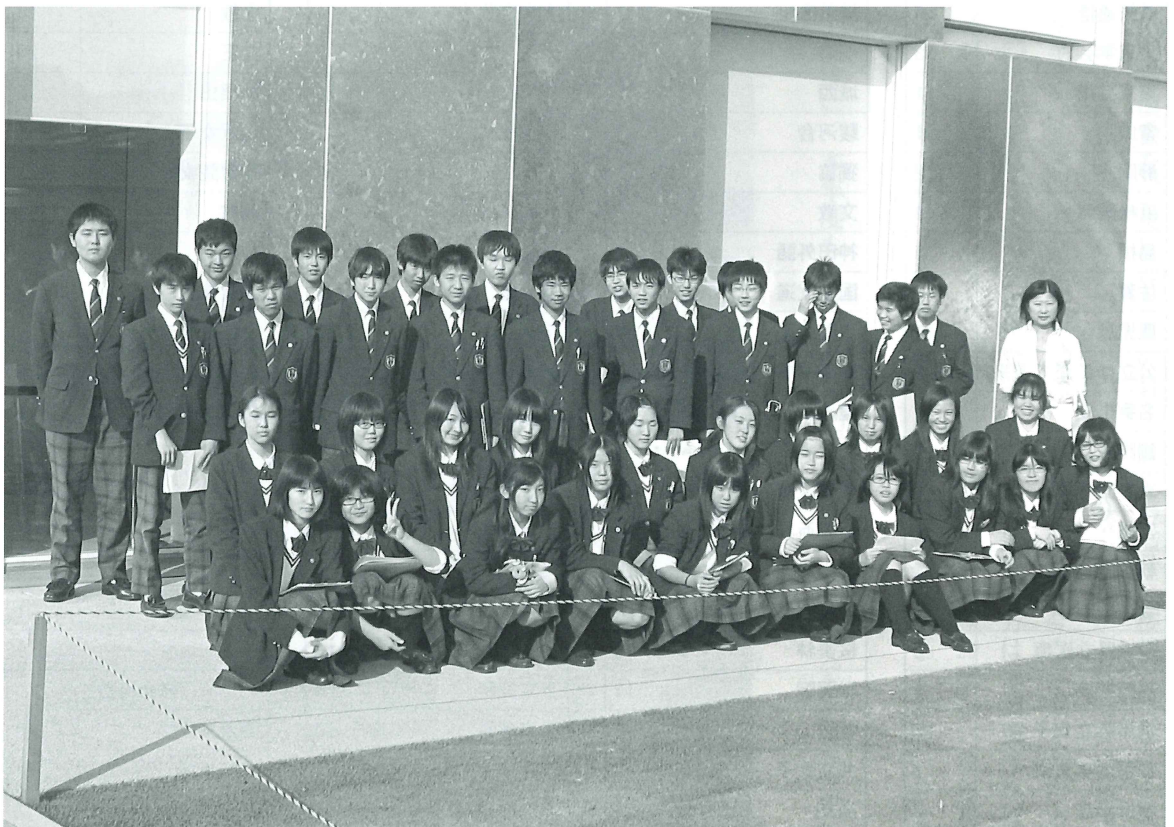
中学校三年五組 山中 崇裕

僕は今まで、『戦争』を甘くみていて、かっこいいと思ってしまっていました。なぜなら今では、『戦争』をテーマとしたゲームがはやってきているからです。それによどのゲームにもエース的な存在の人物が一人はいます。ですがこの「予科練平和記念館」を出た僕にはそのようなゲームが作られていることを思うと、不思議に思いました。なぜ今の大人は、そのようなゲームを作り、子供にやらせようとするのかと思いました。だからもっと『戦争』について、重く考えていくべきだと僕は思います。

中学校三年五組 宮元 花奈

普段、私達は忘れてしまいがちですが、今の生活がどんなに恵まれているかということが今回予科練平和記念館を見学して、第二次世界大戦の時代の変動を知って改めて痛感しました。

さらに、当時の日本から特攻隊として二度と帰ることはできない出身地を離れ、わずか二バーセントの希望を胸にアメリカの飛行機に突撃した一六歳ほどの青年達の心情をおもうといたたまれない気持ちになります。私達はまだ中学生で社会にでるのも、まだずっと先ですが、その当時は私と、二歳しか年齢の違うわな若者が次々と死んでいったという真実があったということです。戦争の悲惨さを物語っていただきました。私達は、これからは今の幸福に感謝しながらも、若くして死んでいった人々を忘れないようにしたいと思いました。



野球応援 特別吹奏楽団

高校一年一組 安彦 来夢

今年、吹奏楽部にとっても、また野球応援の歴史の上でも初となる試みを行いました。それは、野球応援の吹奏楽団を部員や卒業生だけでなく、一・二年

の一般クラスの生徒からも募集し編成した：ということです。

常総学院の吹奏楽部は開校とともに創部され、以来本図智夫先生の指導の下で全国大会12回金賞・東京芸術劇場での演奏会など、伝統と実績を築きあげ

てきました。

しかし、大会出場における人数増員など、吹

奏楽を取り

巻く環境が

徐々に変化

し、また野

球応援の時

期は吹奏楽

の大会時期

でもあるた

め、応援に

行きたくて

も現役生だ

けでメンバ

ーを構成す

ることが難

しくなってきました。卒業生の協力を得て何とか応援部隊を編成していましたが、それでも学

業や仕事の都合で常に来てもらうことは当然難しいため、吹奏楽部経験者を対象に一般クラスから野球応援特別吹奏楽団員の募集を今年初めて行いました。

それにより、今年、野球応援特別吹奏楽団員一六名・部員八名がそろい、在校生主体で野球応援に参加しました。

全体練習は月曜日の一六時、

平日は自主練習で、全員そろっ

ての練習がなかなかできません

でしたが、一生懸命がんばった

結果、例年と同じ質の野球応援

ができたと片山先生からも言わ

れました。この経験を活かし、

次年度も野球応援特別吹奏楽団

員を編成し、さらに野球応援を

盛んにしていければと思います。

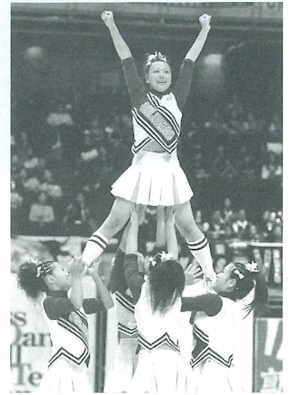




全国大会準優勝!!

チアリーディング部部长
 高校三年九組 宮本 真里

私たちチアリーディング部は、八月二日に行われた『全国高等学校ダンスドリル大会』において準優勝することができました。大会に出るようになって過去最高の成績を残すことができ、とても嬉しく思います。この結果は、チームが一致団結し、協力し合って練習してきた成果だと思っています。三年生にとって最後の大会で素晴らしい結果



を残すことができたので、今まで一緒に頑張ってきた仲間や支えてくれた家族や先生に感謝の気持ちでいっぱいです。

全国高等学校ダンスドリル大会出場をかけた六月に行われた関東大会では一位になり、全国への切符を手に入れました。しかし、大会出場のためには演技構成を一部変更する必要があります。同時に野球応援が入ってきたため、まとめるのが大変でした。そんな中、仲間一人一人が大会への意識を高め、集中して練習することができました。

私はこのチームでみんなと一緒にチアができ、本当に良かったです。素敵な仲間に出会い過ぎた時間は一生の宝物です。

全国大会を終えて

チアリーディング部
 高校二年七組 長谷川奈央

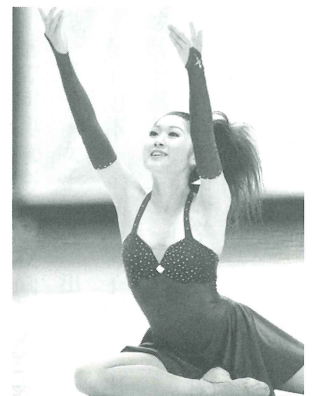
私はこの夏、『全国高等学校ダンスドリル大会選手権大会2010』にソロで出場しました。ソロは正式には『ミズダンスドリルチーム』という名の部門で、チアリーディング部からこの部門に出場するのは初めてということもあり、戸惑うこともたくさんありました。

私は幼いころからバレエをやっていたこともあり、顧問の先生からソロ部門への出場を勧められた時には軽い気持ちで出場を決めました。しかし、実際に



練習を始めてみると、バレエと違う、チアとも違う、どちらかと言えば新体操に近い演技なので、技を習得するのがとても大変でした。それでも、練習のために夜遅くまで付き合ってくれた友達や応援してくれた先輩や仲間、先生方・両親の協力のおかげで、関東予選を突破し、全国の舞台に立つことができました。

結果は、残念ながら思うような成績は残せませんでした。が、とても良い経験になりました。この経験をこれからの学校生活に生かし、部活動でも後輩たちに伝えていきたいと思っています。



常総歴史館

昭和六三年

「修学旅行」

千歳に降り立つ。どこまでもつづく大自然の中をバスは進む。富良野を舞台にした、「北の国から」のイメージ通りの風景が広がる。思わず、生徒の顔々と、純君・ほたるちゃんの顔とがオーバーラップしてくる。テーマ曲まで流れてくるようである。

ゆうべの巡回の疲れもなんのその、さわやかな北海道の朝を迎えた。目指す「霧の摩周湖」は何回訪れても快晴だった。気をとり直して、揚げジャガをかじりながら臨めば、透き通る湖水に心は洗われるよう。硫黄山でも然り、けぶる中を少女に還る。ガイドさんお薦めのソフトクリームを手には、生徒と並んで青春の一頁を撮った。

三日目、早朝、ウトロ港から



船で巡る。船中は、本校の貸しきりバスのよう。でも教室のようには、教員もおこらない。生徒も、自然体である。それにしても、こんなにおいしい空気を吸い込んだのは、何年ぶりだろう。起き抜けの生徒の顔もまたいい。不思議なことに、親の気分になっっている。あくびをしながら、「お早うございます」なんて、悪びれないのもいい。今時珍しく、「おなががすいて…」なんて、とにかく可愛い。恥ず

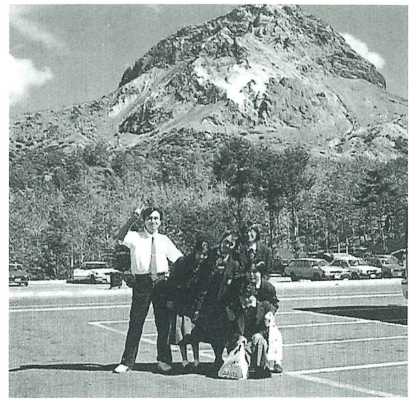
かしくなるほどみつめて、「先生、寝てないんじゃない？」なんて、私の美貌を心配してくれるのも実にうれしい。去年の林間学校の時もそうだった。学校以外の場で、生徒の素顔を発見できる。「こんな早起きして、何がおもしろいんだ？」なんてあまのじゃくにも、今日は優しい私である。

網走のオホーツク流水館でのこと。マイナス一〇℃の酷寒体験とやら。体の心まで凍る空間に、齒まで震わせながらも笑顔で耐える不思議な集団。修学旅行とは、いかに忍の場なるか。ふだんの教室にも、こういう顔がほしいものである。

そして、グラビアそのままの層雲峡。自然は時おり、とても人間では想像もつかないようなことを平然とやっつてのける。この奇観はまさにそれだろう。車窓を流れる柱状節理の絶壁に、先日のニュースで聞いた崖崩れの惨事を思い出す。流星の滝、

銀河の滝のロマンチックな説明を受けながら、はたしてバスは突然止まった。昨日からの雨で、またしても土砂の滝である。我らが宿まで、わずか五分。待つところ二時間半。男子生徒は、がまんできなくなつて近くの国有林へと走る。もどつてきた爽快な顔々に、何にも言えない担任であった。何が起こるかかわらない、厳しい自然の中に私たちはいた。その日の遅い夕食の、それはおいしかったこと。救わ





れた心地の今宵は、少々にぎやかであったも、大目にみることにした教員一同であった。

四日目、札幌散策の日。羊が丘牧場に飛ぶ。雄大な牧草地に、羊が群れをなし、ポプラ並木がつづいている。学校を忘れ、全てを忘れ、北国のロマンが凝縮されたような風景に酔っていた。大通り公園にもどる。啄木の歌にも詠まれたトウキビを木陰でかじる：のをがまんして、「龍鳳」をひたすら探す。胸をときめかし、そののれんをくぐる。「牛乳ラーメン：やっぱり味噌ラーメン下さい」

またしても勇気がでなかった。店内には、見慣れた制服がちらほら。三人の我が生徒たちも、ふつうのラーメンを満足そうにほおぼっていた。

いよいよ終着駅、支笏湖岸に立つ。湖畔まで追る深い樹海、静けさと神秘さが漂う中、疲れきった、それでいて晴れやかな顔々があった。何よりもまず、全員が無事で帰れる、その幸せをお互いかみしめていた。澄んだ空気と水深三六〇mの藍色の

湖水、旅の終わりはあくまでも厳粛であった。

振り出しの千歳空港、昔からアイヌの人々の間で長寿と若返りの木の実と伝わるハスカップのジャムを買い求め、明日の健康を願った。

この五日間は生徒にとっても、全体の中の個の在り方を考える旅であったにちがいない。

(樫戸 節子 記)

十周年記念誌『十年の歩み』

再録



同窓会事務局より

常総学院高等学校
同窓会総会開催のお知らせ

日時 平成23年5月29日(日)
午前10時から
場所 常総学院高等学校
視聴覚教室

会員皆様の多数の御出席をお待ちしております。

会報への
寄稿をお願い致します。

会員皆様より会報への寄稿をお願い致します。特に、同期会、クラス会開催等、卒業生の活躍に関する情報をお寄せ下さい。詳細は同窓会事務局までお願い致します。

悪質な電話(勧誘)にご注意

同窓会事務局あるいは常総学院事務局と名乗って、電話などで強引に勧誘する事件が発生しています。不審な勧誘、確認調査等を受けた場合には、即答せず同窓会事務局までお問い合わせ下さい。
同窓会事務局が調査を行う場合は同窓会長や学校長の名前が入った郵便で行います。

職員室だより

保健体育科

保健体育科には現在、常勤一名・非常勤五名の教員がいますが、とにかく豪快・愉快な教員集団です。

高校は入江先生が、中学校は武井先生が中心となり、スポーツなどの各種の運動を通じて、心身の健やかな成長をねらうとともに、自己の体のしくみなどの理解にも努めています。そのため、数年前より「タグラグビー」を校技とし、「一人は皆のために、皆は一人のために」の精神を育てています。

卒業生のみならずは保健体育での思い出の一つに「集団行動」があると思いますが、



宮田仁 仲野谷宗治 長谷部勝弘
飯塚康弘 佐藤和宏 飯塚留美 伊坂三久
佐々木力 中嶋真也 入江道雄
福田好行 飯嶋弥生 大海聖賀

これは今も年度初めの授業で必ず行っています。「右向け右!! (左向け左!!)」のカウントは初期の頃と変わっていますが、まさに集団で行動するときの規律を守る目的で行っています。懐かしく思ったら、ぜひ「集団行動」をしに遊びに来てください(笑)。

常総学院高等学校同窓会における会員の個人情報の取扱いについての内規

- 第1条 (内規の目的)

本内規は、会員の個人情報(以下「会員データ」)の保護に関し、必要な事項を定めることにより、会員の個人情報の保護と、信頼される同窓会の実現を図ることを目的とする。
 - 第2条 (会員データの定義と項目)

会員データとは同窓会事務局が管理している、会則に定める会員の個人情報をいう。また、管理する個人情報の事項は下記の通りとする。

 - ・氏名/卒業年(卒回)/現住所/現住所の電話番号
 - ・会費等の納入状況
 - 第3条 (個人情報の利用目的)

同窓会は下記の目的に個人情報を利用するものとする。

 - ・同窓会からの各種通信文の発送(会報・クラス会・同期会・支部会等含む)
 - ・会員名簿の作成
 - ・その他、会則に定める事業の遂行に必要と判断される諸事業
 - 第4条 (管理者の責務)

同窓会事務局は、会の目的に即した事業の遂行に当たり知り得た会員データをみだりに第三者に漏らしたり、第3条の利用目的以外に使用してはならない。また、管理責任者は会員データを常に、最新・正確なものに保つようつとめるものとする。
 - 第5条 (会員の責務)

会員は、相互に個人情報の重要性を認識し、会員データは個人会員の利用目的の範囲を超えてはならず、また、第三者へ会員名簿及び会員データを提供してはならない。
 - 第6条 (会員データ管理責任者の設置)

同窓会は会員データを厳格適正に維持管理し、会員の個人情報の安全保護を図るため同窓会事務局内に「会員データ責任者」を置く。
 - 第7条 (会員データの利用申請)

会員が会員相互の親睦を深め、または同窓会活動を活性化するために同期会、クラス会、支部会等で会員データを利用する時には「会員データ管理責任者」に対して、所定の利用申請書により申し込みなければならない。
 - 第8条 (会員データの提供拒否)

会員データ責任者は、会員データの利用申込みに対して、不正な会員データ利用が疑われ、また適正な利用が妨げられると判断した場合には、申請者に対して会員データの提供を拒否することができる。
 - 第9条 (会員データの利用状況報告)

会員データ管理責任者は、随時「幹事会」に、会員データの提供・利用状況を報告しなければならない。
 - 第10条 (自己情報の開示及び訂正・消去の請求)

会員は、会員データの自己情報について、いつでも開示の請求ができる。会員データ管理者は、請求者が本人であることを確認のうえ、開示請求に対応するものとする。また、自己情報に誤りがある場合は、事務局に訂正または消去の請求ができるものとする。
 - 第11条 (内規の変更)

会員の個人情報保護のために、右記以外の定めが必要な場合は、または変更がある場合は、幹事会にて協議し決定する。
- 附則
平成17年4月17日制定 この内規は平成17年4月17日から施行する。

■平成21年度常総学院高等学校同窓会決算書■
平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

■平成22年度常総学院高等学校同窓会予算書■
平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

■収入の部 (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
1.会 費	9,460,000	10,837,000	△ 1,377,000	
卒業生会費	900,000	1,187,000	△ 287,000	終身会費32名、会員75名
在校生会費	8,560,000	9,650,000	△ 1,090,000	終身会費145名、会員604名
2.雑 収 入	30,000	48,488	△ 18,488	受取利息
3.前年度繰越金	49,802,762	49,802,762	0	
合 計	59,292,762	60,688,250	△ 1,395,488	

■収入の部 (単位:円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
1.会 費	9,665,000	9,460,000	205,000	
卒業生会費	900,000	900,000	0	終身会費20名、会員100名
在校生会費	8,765,000	8,560,000	205,000	終身会費135名、会員539名
2.雑 収 入	30,000	30,000	0	受取利息
3.前年度繰越金	53,480,140	49,802,762	3,677,378	
合 計	63,175,140	59,292,762	3,882,378	

■支出の部 (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
1.消 耗 品 費	250,000	65,916	184,084	事務用品等
2.通 信 運 搬 費	900,000	784,734	115,266	会報郵送代
3.印刷製本費	1,400,000	1,265,277	134,723	会報印刷代等
4.会 議 費	100,000	131,450	△ 31,450	役員会時飲み物代等
5.旅 費 交 通 費	300,000	265,000	35,000	役員会時旅費
6.部活動補助費	3,500,000	3,620,378	△ 120,378	硬式野球部・ラグビー部他
7.記 念 品 費	500,000	775,000	△ 275,000	コサージュ・生徒手帳
8.広 報 費	100,000	105,000	△ 5,000	新聞広告料
9.雑 費	200,000	195,355	4,645	銀行振込手数料他
10.次年度繰越金	52,042,762	53,480,140	△ 1,437,378	
合 計	59,292,762	60,688,250	△ 1,395,488	

■支出の部 (単位:円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
1.消 耗 品 費	350,000	250,000	100,000	事務用品等
2.通 信 運 搬 費	900,000	900,000	0	会報郵送代
3.印刷製本費	1,400,000	1,400,000	0	会報印刷代等
4.会 議 費	100,000	100,000	0	役員会時飲み物代等
5.旅 費 交 通 費	300,000	300,000	0	役員会時旅費
6.部活動補助費	3,500,000	3,500,000	0	柔道部・バドミントン部他
7.記 念 品 費	500,000	500,000	0	コサージュ・生徒手帳
8.広 報 費	100,000	100,000	0	新聞広告料
9.事 業 費	120,000	0	120,000	1期生同窓会開催補助
10.雑 費	200,000	200,000	0	銀行振込手数料他
11.次年度繰越金	55,825,140	52,042,762	3,782,378	
合 計	63,295,140	59,292,762	4,002,378	

※項目間の彼此流用することができます。

上記のとおり決算いたしました。

平成22年5月22日 常総学院高等学校同窓会 会長 飯田晃久
上記の決算書について諸帳簿関係証書を監査した結果、適正かつ正確であることを証明いたします。

平成22年5月22日 会計監査 久保田美幸 前川信史

上記のとおり提案いたします。

平成22年5月30日 常総学院高等学校同窓会 会長 飯田晃久
平成22年度予算について

平成22年度予算は、平成22年度の事業計画と平成21年度の収支実績を勘案して編成した。

- 収入の部
卒業生の入会金、会費539名、会員年会費135名を収納予定として計上した。
- 支出の部
本年度の事業計画は、①第11号同窓会会報の発行②会員への同窓会会報郵送③各部活動への補助④卒業生・新入学生への記念品が主なものである。これに基づき予算を編成した。
第92回全国高等学校野球選手権大会出場に際し会員の皆様より寄付のご協力を賜り有難うございました。

平成22年度常総学院高等学校同窓会会務分担表

担 当	本 部 役 員	学 校	主 な 業 務	担 当	本 部 役 員	学 校	主 な 業 務	
総 務	副会長 泉 琢 磨	岡田慎一郎 林 克 俊 中川健太郎	飯塚康弘 仲野谷宗治	事務局	副会長 伊 沢 勝 徳	平 井 修 司 神 野 智 子 上 原 拓 也	小島剛博 田中光恵 青柳隆雄 片山章 佐藤和宏	
	副会長 杉 田 和 美	切 替 隆 喜			副会長 泉 琢 磨	根 岸 里 江 多 田 誠 小 倉 明 子		
	副会長 玉 井 尚 良				副会長 山 口 大 武	櫻 井 勝 田 村 江 梨 佳 加 藤 純 一		
経 理	副会長 伊 藤 哲 也	増 田 陽 子 内 田 悠 佑 塚 本 勝 則	磯 部 和 弘	予算編成と執行・決算 諸会費等の徴収	副会長 杉 田 和 美	深 澤 武 晃 乙 高 優 人 永 井 一 正	藤 野 明 美	
	副会長 杉 田 和 美					副会長 長 谷 部 勝 弘		妹 川 康 仁
	副会長 布 施 谷 正 人							
会 報	副会長 山 口 大 武	渡 辺 裕 次 伊 藤 俊 太 郎 猪 瀬 高 美 川 井 由 美 子	大 海 聖 賀 牧 野 絵 美 谷 川 義 宜 松 林 康 徳 祐 源 愛	会報の編集・発行	副会長 今 啓	米 山 真 也 倉 持 亜 季 子 土 子 和 之		
	副会長 杉 田 和 美	岩 井 大 輝 内 田 大 樹 渡 辺 真 弓						
監 事	前川信史	久保田美幸					本会会計の監査	

特集

『理事長・校長・伊沢副会長、母校を大いに語る』



左側から櫻井理事長、伊沢副会長、原田校長

出席者



●学校法人 常総学院
理事長 櫻井富夫
(茨城県議)



●常総学院中学校高校
校長 原田敏和



(司会)
●常総学院高校同窓会
副会長 伊沢勝徳
第四期卒業生(茨城県議)

伊沢…本日は、お忙しい中お集まり頂き、有り難うございます。「昔と今の子供達を取り巻く環境の違いと常総学院の教育方針」というテーマで、櫻井先生、原田先生にお話を伺いたく存じます。始めに開校当時の様子をお話下さいませんか。

櫻井…本校が開校した昭和五十八年は、日本が世界の中で大きく経済成長を続けていた時代でした。教育現場では「個性重視」「生きる力の養成」を

目標に教育改革が進んでいる時期でもありました。本校創設メンバーは、その教育改革の在り方に危機感を覚え、「世のため人のために生きる力」を養うことが肝要と信じて取り組んで参りました。

伊沢…「世のため人のために生きる」ということは、私が在籍していた時も、多くの先生方から教えて頂きました。そのような時代背景があったからこそのご指導だった訳ですね。

櫻井…以来三十年近く経った今、日本の青少年の学力は下降し、反面、犯罪率は上昇するという、厳しい時代状況になっていきます。本来日本は、産業立国・教育立国を目指したはずで、その根底にあるものは「世のため人のために生きる」という精神でした。残念ながら現代の若者には、その精神が失われつつあるように思います。そのような状況を見る時、本校が開校以来取り組んで来た在り方に価値ありとの確信を深めています。



伊沢…この春の卒業式に出席させて頂きました。無欠席者数が大変多かったことに感銘を受けました。このことも先生方が掲げられた教育理念の現れなのですね。

原田…その通りです。私はこの時、校長として卒業生に心からの感謝と敬意を表しました。そこでこの感動的な成果に関連して、今年度の重点目標三

点についてお話しします。先ず第1の目標は、「一日も休まずに登校しよう」です。精勤・皆勤を目指すことで、努力し続けること、耐えることの大切さと勤勉であることの大切さを学びます。第2の目標は、「学校で勉強しよう」です。学校は言うまでもなく学びの場です。当たり前のことなのですが、1時間、1時間の授業に真剣に取り組むことを求めます。また出来る限り学校に残って勉強することで、緊張感ある学習姿勢と自学自習の習慣性、更には基礎学力をしっかりと身につけていきます。また更に自らの課題

を見出し、その課題に向かっ

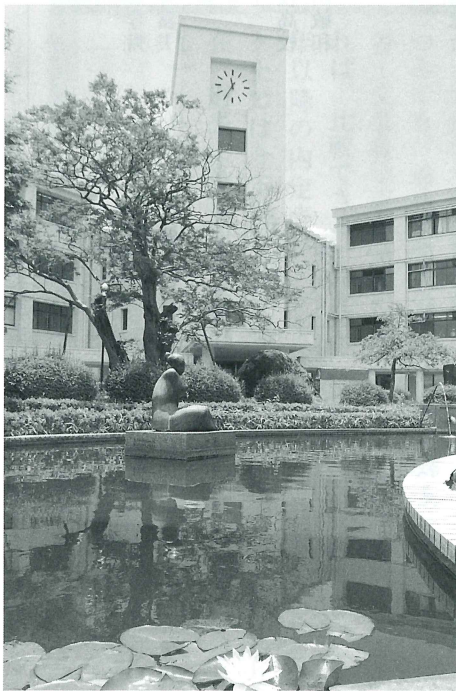
大峰 梅澤

て取り組む姿勢を学んでいくのです。

この在り方は、将来世に出て困難な課題に直面した時、ブレイクスルーを起こす大きな知恵と力を与えてくれるものと信じます。第3の目標は「一人のために生きよ

う」です。世のため人のために生きること。他者への貢献の意識をもって生きること。即ち「利他の精神」をもつて生きることが、日本を地球世界を変えていくエネルギーとなります。個々の人間にとっても、大きな達成感と自己肯定感とを与えてくれる在り方なのです。

伊沢…その目標達成のためには、教職員の皆様方の共通認識と共通理解、またご家庭の協力が不可欠ですね。常総学院がここまで発展成長して来られたのも、先生方のお考えがご家庭にも



届いているからこそ、子供達が健やかに学校生活を送れる訳ですね。ところで、櫻井先生にお聞きしたいのですが、「心の豊かさ」とはどういうことだとお考えでしょうか。

櫻井…私が考える「心の豊かさ」とは、「プライドを持って生きる」ということです。「世のため人のために生きる」という意識を持つことは、社会生活を営む上で大切なことですが、自分の取り組んでいる勉強や仕事に「自信」と「誇り」を持っていなければ、充実した人生を送ることは出来ないでしょう。これは個々の人間について言えることです。学校という組織についても同じことが言えます。揺らぐことのない確かな理念のもとで教育活動を展開していかなければ、生徒も、常総学院も成長してはいけません。その意味で私は、開校以来、生徒や保護者の皆さん、教職員に大変恵まれていると感謝しております。本校を巣立った卒業生の皆さんが、高いプライド

を持って、様々な分野で活躍なさっている姿は、教職員にとっての励みであり、後に続く在校生の誇りともなっ



ているのです。

伊沢…常総学院のひたむきな努力が確実に実を結んでいると感じる出来事に、「我が子を母校に入学させたい」という声を同窓生からよく耳にします。これは、自分が過ごした常総学院での生活が、如何に有意義なものであったのかの証明であると思います。「自分が青春を燃やした懐かしい常総学院の環境で子供を学ばせたい」という声もよく聞く言葉です。卒業生にとって、母校常総学院は自分自身の誇りでもあるのですね。

原田…本当に有難いことです。お話の通り、卒業生のお子さんが在籍しているという事は、本校が取り組み実践してきた教育活動が、地域社会の皆さんに認められてきたということであり、私も教職員の自信にも繋がっています。

伊沢…では最後に、卒業生に向けて、櫻井先生、原田先生から一言ずつお願い致します。

櫻井：今、私が考えておりますことのひとつに「キャンパスと地域社会の融合」ということがあります。卒業生を中心に講師になって頂き、これまでお世話頂いた地域の皆様方に、恩返しが出来れば大変嬉しいことです。地域社会における生涯教育の充実を図ることで、在校生にも良い刺激になってくれるものと思います。今後は、地域社会を大きな家族と捉えて、地域・生徒・保護者・学校の更なる発展を目指していきたいと考えております。卒業生の皆さん、保護者の皆さんのご協力を頂くことが出来ましたら幸いです。

原田：日頃から在校生に呼びかけていることでもありますが、卒業生の皆さんにも、世に出て仕事を通して、「生きる」という言葉の真の意味を自らに問いかけて、プライドを胸に、志高く歩み進んでほしいと願っています。また時には、常総学院にお運び頂き、嘗ての自分自身の姿を思い起こすことで、新たな元気を手にして頂けたら嬉しく

思います。卒業生の皆さんが、母校常総学院をお訪ね下さることを心待ちにしています。

伊沢：櫻井先生、原田先生、本日はご多忙中にも関わらず、貴重なお話をお聞かせ頂き、有り難うございました。様々な場で仕事を通じ、社会に貢献されている卒業生にとって、大変力強いメッセージを頂くことが出来ました。今後とも先生方のご意見を頂きながら、常総学院高校同窓会の充実発展を図って参ります。本日は本当に有り難うございました。

